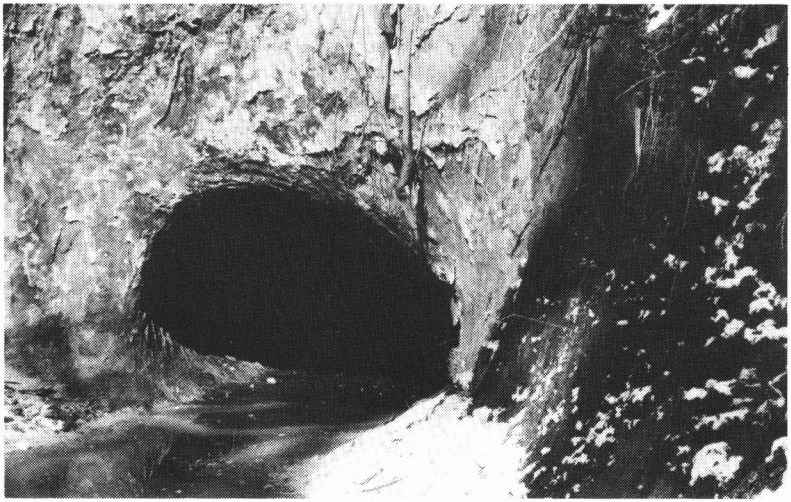
用水路の堤防に散りしかれたイチョウの葉をぬらしていました。完成した昔を思い出して喜びをふたたび感じていた二人には、しぐれもそれほど気になりませんでした。

その夜、家に帰ってからも昔の思い出を語り合って、二人はなかなか寝つかれませんでした。

初めて洞門に水が通された日――たくさんの人々の目の前を水が走りぬけると大きな歓声がわきおこった――西郷頼母を初めとするたくさんの人々からおほめ



飯盛山の洞門